Topics 01

「名取のクロマツ林」の再生をめざして

～仙台湾沿岸海岸防災林復旧事業が完了します～

東北森林管理局　仙台森林管理署

仙台空港へアプローチする機内から海岸防災林を望む

仙台森林管理署では、東北地方太平洋沖地震に伴う津波で被災した仙台湾沿岸の海岸防災林について、隣接する民有林と国有林を一体的に再生するための取組を進めています。このような中、地域住民の皆様のご協力により今年度末で事業の完了を向かえることになりました。

このうち名取市では、公益財団法人オイスカと名取市海岸林再生の会の協力を頂いており、仙台森林管理署が造成した生育基盤盛土に、両者がクロマツの苗木を育成・植栽し、その後の育林までを担当して頂いています。

今回、名取市民の皆様には、海岸防災林の歴史や役割、その再生方法などについてご紹介します。

仙台湾沿岸の海岸防災林の歴史

仙台湾沿岸の海岸防災林の歴史は、江戸時代より前から記録がありますが、本格的に造成が行われるようになったのは、伊達政宗の命によるものと言われているほか、貞山堀造成時に植栽したとも言われています。

また、17世紀末には、宮城郡、名取郡、亘理郡のほか、仙台藩領の海岸の大半に海岸林が存在し藩有林として管理され、当時は潮除須賀松林（しおよけすかまつりん）と呼ばれていました。

藩有林は明治以降国有林として管理が続けられ、1933年の昭和三陸地震による津波に対して、海岸防災林が減災効果を発揮したことから、国や県主導による海岸防災林の造成が活発になり、地域の人々の手による植林も行われてきました。

さらに、1960年のチリ地震津波以降は、宮城県の手により、より汀線に向けて海岸防災林の拡幅が行われてきました。

名取市の北釜地区には、広大な農地を潮害から保護するため、地域の人々が湿地帯であった葦原を10年の歳月をかけて海岸防災林に造成したことを記した「愛林碑」があります。

このように、海岸防災林の造成や維持管理は地域の人々の参画により成し遂げられてきました。

昭和初期、海岸防災林をつくる人々（名取市閖上　旧名取郡閖上町）
写真提供：公益財団法人宮城県緑化推進委員会

海岸防災林とは

海岸防災林は、海からの強風、飛砂、高潮の害などから、田畑や人家などを守る、保安林に指定されている森林です。

砂地が森林に覆われることで砂が飛ばされにくくなります

また、海岸防災林は津波のエネルギーを弱めたり、津波で流された漂流物を捕捉して、被害を低減させる効果も期待されます。

津波に強い海岸防災林として再生する

樹木は通常、地下水があるところまでしか根が張れません。仙台湾沿岸地区では地面の浅いところに地下水がある場所が多く、根が深く伸びずに、津波の力で根ごと倒木して流されてしまいました。

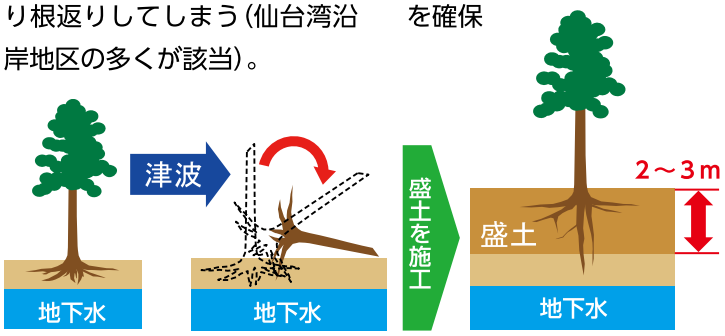
このようなことから、津波に強い森林となるように、地下水位から2～3m程度土を盛って、根を十分に張ることができる環境を整えてから、木を植えることにしました。

植栽木は、クロマツが主体ですが、マツクイムシ対策として、抵抗性のクロマツ苗を植えています。

盛土により樹木の健全な成長を促進

地下水位が高いと、根を十分に伸ばせないために、津波により根返りしてしまう（仙台湾沿岸地区の多くが該当）。

盛土を施工することで、根を十分に成長させるスペースを確保



海岸防災林再生工事

①生育基盤盛土

津波に強い海岸防災林として再生するため、生育基盤盛土を造成しました。造成にはダンプカーで運搬した大量の山砂を使いました。

盛土はクロマツの根を成長させるスペースを確保するのが目的なので、柔らかく仕上げることが必要でした。しかし本来の盛土は崩れないようにしっかり締め固めるものなので、柔らかく仕上げる施工には苦労しました。対策の一つとして、植栽をしない外周の法面をしっかりと固め、この中へ山砂を運び込むことで柔らかい盛土を造成することができました。

②掻き起こし・素掘り水路

柔らかい盛土をしても重機を使い敷均しを行うことから、植栽面は重機の重さで固まってしまいます。そこで植栽前にリッパドーザで盛土表面を掻き起こし柔らかくすることで、比較的柔らかい盛土に仕上げることができるようになりました。

また、降雨時に事業区域外へ雨水を排出しないように、一時的に雨水を貯めゆっくりと盛土内へ浸透させるための素掘り水路を作設しました。

台風等の豪雨時に水路からあふれた雨水は、事業地内の作業道を貯水池として活用し、事業地から雨水が流出しない工夫をしています。

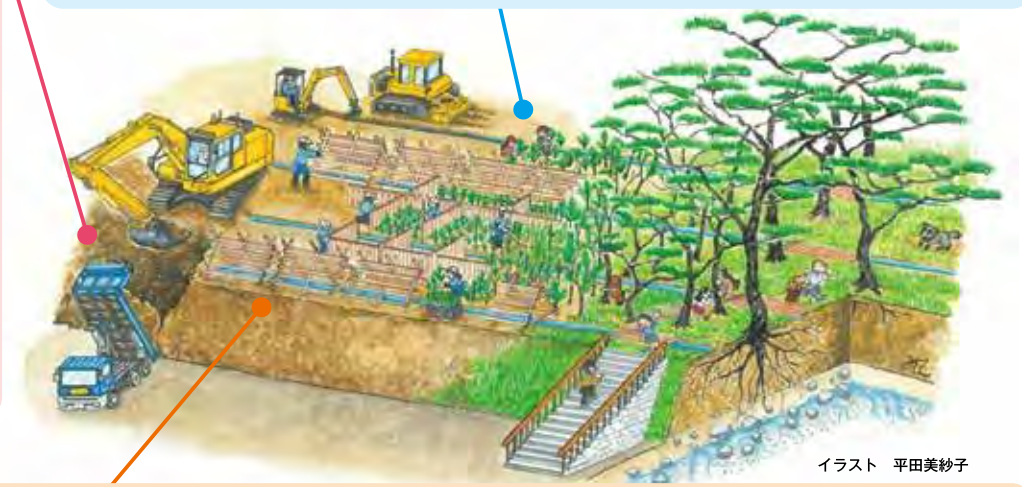


イラスト　平田美紗子

③防風柵・防風垣

仙台湾沿岸の風は、主に夏は海から、冬は内陸から強く吹きます。

海岸防災林はこれらの風を防ぐ役割がありますが、植栽したばかりのクロマツの苗木には風やそれによって運ばれる砂や潮は大敵です。そこである程度成長するまでの間、これらの風等から苗木を守るため防風柵や防風垣を設置しました。

名取市民の皆様、ご協力ありがとうございました。

問 仙台森林管理署（仙台市青葉区東照宮1-15-1）　☎273-1111

2012年に種まきをし、「名取市海岸林再生の会」が手塩にかけて育てた苗を初めて海岸に植えたのは2014年の春。同年5月の植樹祭で、約350名の市民の皆さんに植えていただいた苗は、順調に育ち、最高で5mにまで成長しています。現在、植栽はほぼすべて完了しましたが、本当に人の手が必要になるのはこれからです。第2次10ヵ年計画がスタートする来年以降も引き続き、名取市民の皆さんの協力を得ながら活動をしてまいります。

なお、名取市を舞台にしたプロジェクトのこれまでをまとめた本（タイトル未定／小林省太著）が今月出版されます。ぜひお手に取っていただければと思います。

公益財団法人オイスカ　「海岸林再生プロジェクト」担当部長　吉田俊通

お問い合わせは　☎03−3322−5161（オイスカ「海岸林再生プロジェクト」担当まで）
活動スケジュールなどの情報はこちら ▶▶▶　http://www.oisca.org/kaiganrin/

2070年ごろ
樹高20mほどに育った「名取市民の森」が、潮風や塩害から生活を守ります

松くい虫の原因となるマツノザイセンチュウに抵抗性のある苗を植えていますが、被害にあわないとは限りません。防除のためには、早期発見、適期駆除が必要で、日頃から植栽地や周辺地域の巡視が欠かせません。

松くい虫対策

年間、さまざまな保育・管理作業が必要となります！

どの雑木を伐る**「除伐・ツル切り」**とともに、成長の悪いクロマツや5000本を植えましたが2070年までに段階的に本数を調整し、1haあ

イラスト　イラストレーター ico.（閖上出身）

櫻井　勝征さん
名取市海岸林再生の会

マツがある時には何とも思っていなかったけれど、枯れても荒れても植え直して代々守ってきたマツがなくなってしまい、冬場は海から冷たい風が入るし、夏場も風が入るようになりました。夏は涼しくていいという人もいるけれど、特に稲にはよくない。孫末代まで生活を守ってくれるように心を込めて苗木を育ててきました。植えたマツが以前のように風を防いでくれるようになるまで何十年もの時間がかかりますが、見守っていきたいと思っています。

小野　倖誠さん
ボランティア
（名取北高校出身）

1年を通して何度かボランティアに参加する中で、本当に様々な人が全国から来てくれているなと感じられました。クロマツの保育管理作業は地味な作業のように感じますがとても大切な作業です。これからは我々地元の若い世代が、技術や知識、想いなどを受け継ぎ、協力して松林を守っていかなければならないと思っています。

松浦　勝夫さん
松浦　雅子さん
ボランティア

毎月１～２回のボランティアに夫婦で参加しています。私たちは愛島に住んでいるので、海岸からは遠く離れていますが、名取市民としてできる活動として楽しく参加しています。市内や県内からだけではなく、毎回全国からボランティアの方たちが来られますし、若者たちも大勢参加しています。私たちは「役に立ちたい」という思いよりは「たくさんの方と交流できて楽しい」という思いの方が強いかもしれません。これからも楽しく参加したいと思っています

「名取市民の森」の今、そしてこれから

～健全なクロマツ林に成長するまでには、市民の皆さんの協力が必要です～

2011年にスタートした「海岸林再生プロジェクト」は、名取市の海岸100haのクロマツの林を「名取市民の森」として再生させる活動です。10ヵ年計画での取り組みは、多くの市民の皆さん、全国の皆さんのご寄附やボランティアへの参加協力で、最終年度を迎えることができました。

これからも続いていく“森を育てる活動”に皆さんの関心を寄せていただきたく、現在取り組んでいる作業とあわせ、今後必要になる作業を中心にご紹介します。皆さんの参加お待ちしています！

溝切り / 下草刈り / ツルマメ草抜き取り

多湿がクロマツの成長を妨げるため、排水環境が悪いところは排水路を掘ります。

日光を遮る雑草のみを刈ります。また、クロマツに巻き付くツルマメも取り除きます。苗木が周囲の雑草から完全に頭を出すまで下草刈りは続きます。

こうした活動にはこれまで延べ1万2千名が参加してくださいました！

10月にオープンしたサイクルスポーツセンターのサイクリングロードは、海岸林の中を走るコースです！これからは、クロマツの生育状況などにも目を向けてみてください！

ゴミ拾い

植栽地内のゴミの投棄が目につきます。ゴミ拾いは定期的に実施していきます。

海岸に植えられたクロマツが成長するまであと50

ほかにも……

プロの手でクズの刈り取りや、侵略的外来種のニセアカシアな過密になっている場所を緩和させる**「間伐」**を行います。1haにたり800～1000本にします。

海岸防災林写真展

▶ **名取駅**
2020年12月1日
～2021年1月15日

▶ **名取市役所**
2021年1月8日
～1月29日

▶ **名取市図書館**
2021年2月25日
～3月23日

プロジェクトに関わってくださった市民からの声

武田　昭夫さん
名取市海岸林再生の会

全国のボランティア、宮城県内や名取市内のみなさま、名取市海岸林再生の会、森林組合、オイスカなど、多くの人たちの手で育苗、植栽、保育と大事に育ててきました。おかげさまで5mに育ったクロマツもあります。大切な松林を未来まで引き継ぐためには、みなさまのあたたかい見守り活動とゴミなどの不法投棄を防止することが最も大切な事です。この松林は私たちの生活を守ってくれている大切な「市民の森」ですから、みなさまのご協力をお願いします。

大友　淑子さん
名取市海岸林再生の会

私たちが種から育てた苗木が大きく育っているのを見ると、感動とともに生きる喜びがこみ上げてきます。手塩にかけたマツが松くい虫被害にあわないためには、できるだけ海岸林に足を運んで見守っていきたいと思います。一人では大きな力にはならないので、みなさま方と共に手を取り合って、これからもたくさんのご協力よろしくお願いします。